

## 世界に通じる学生を育てる教育への提言

宮内 卓

人間総合科学研究科教授

はじめに

本稿では、学生の研究について論じてゆきますが、最初に、以下の話題から始めます。今夏は、オリンピック発祥の地であるアテネでオリンピックが開催され、日本代表として本学関係者も多数参加し、大活躍しました。今春、本学体育専門学群を卒業した谷本歩実さんは女子柔道 63 キロ級に出場し、5 試合すべてに一本勝ちで金メダルを獲得しました。名実ともに世界一に輝きました。オリンピックを通じて、全世界にその存在をアピールしたのです。まさに、筑波大学が排出した世界に通じる人材の一人で、その指導に関与された先生方の成果の賜と言えるでしょう。スポーツの世界では、オリンピックや世界選手権といった舞台での活躍が国際的な評価を得ることになると思います。

一方、研究の分野ではどうでしょう。平成 16 年 4 月 1 日発行の「速報つくば」の岩崎

洋一学長からの研究に関するメッセージにて、「学術的・国際的価値の高い基礎研究と社会的要請の大きい応用研究・学際研究を、両者のバランスをとりながら推進していきたい。また、21 世紀 COE の育成など、戦略的な取り組みを強化し、世界的研究拠点の創設に力を注ぎたい。」とおっしゃっております。研究面で世界に通用する評価を得るためには、当然のこととして、国際学術誌や国際学会において研究成果の発表を行わなければなりません。岩崎学長のメッセージの通り、筑波大学は、学術的・国際的価値の高い研究成果や社会的要請の大きい応用研究・学際研究を世界に発信していかなければならない使命を持っているのです。

研究で世界に通じる人材（学生）の育成のための環境づくり

最近、私の専門分野（循環器内科学）に

関連する国際学会で、多くの日本人若手研究者（大学院生を含む）が研究発表を行っている姿をよく見かけます。若手研究者が研究成果を国際学会で公表することは、日本だけでなく、世界に目を向けた光景として、非常に頼もしく感じます。いや、世界を視野に入れて研究を行うのであれば、これが本来あるべき姿なのかもしれません。大学院生を含む若手研究者が、国際学会での研究発表、そして一流国際学術誌への研究成果公表を当然だと考えることが、研究で世界に通じるための第一歩だと思います。そのためには、大学院生が世界を視野に入れた土壌を当然のこととして受け入れる環境づくり（研究室づくり）が極めて重要だと私は考えます。研究室が世界でトップレベルの研究成果を出せるように、教官を含めた皆が精一杯の努力をすることが必要です。この研究室自体の意識づくりは重要と考えます。世の中で誰も言っていない、オリジナリティーのある新知見を見出す研究成果の発信を、学生に指導してゆかなければなりません。このためには、そのようなオリジナリティーのある新知見を見出した論文を教官が厳選し、定期的に学生に読ませることも必要になってきます。

### 国際学会への学生の参加の推進

研究で世界に通じる学生を育成するため

には、大学院生に国際学会で研究成果を発表することを積極的にサポートすることが大切だと考えます。私の経験からも若い時期における国際学会での研究発表は、大変貴重な経験となります。また、この発表した研究成果を適切な早い時に英文論文としてまとめることを指導することも必須だと考えます。国際学会で研究発表を行うことのすばらしさや充実感を若い時期に体験することは、今後の研究者人生において、世界を視野に入れることを当然のこととして受け入れることとなります。我々教官は、大学院生に国際学会参加の場を提供し、積極的にサポートすることが、将来、世界に通用する研究者の育成に大きく貢献することは間違えないだろうと考えます。若い芽を摘むことなく、筑波大学から世界に通用する多くの研究者を育成したいものです。

### 国際学術誌への研究成果公表の推進

研究者にとって、研究成果を学術誌に公表することは、責務とも言えます。若手研究者が、研究成果を公表する学術誌も当然のこととして、国際誌に目を向けさせることは重要です。大学院生を含めた若手研究者には、それぞれの専門分野で最も高い評価を得ている一流国際学術誌を目指して、常に挑戦する気持ちを持たせたいものです。研究成果が一流国際学術誌にアクセプトさ

れた時の感激を若手研究者に味合わせることは、意識を向上させる上で非常に大切であると考えます。この経験や感動は、必ず、今後の研究生活の糧になると思います。当然のこととして、一流国際学術誌に論文を通すには、我々教官の指導能力が大きくかわりますが、我々教官は大学院生の研究成果を最もよい形で世界に公表できるようにサポートしなければなりません。

なければならない使命を持っているのです。

(みやうち たかし／循環器内科学)

## おわりに

世界に通用する学生を育てるためには、まず、我々教官自身が世界的に通用するオリジナリティーの高い研究成果を生み続け、常にレベルアップを続けて成長するのだというスピリッツを持つことが大切だと思います。そして、夢と挑戦する気持ちを持ち続け、それを学生に伝えていくことだと思います。それはきっと我々の姿に表れるものでしょう。これらのことが大前提となり、前述した環境づくり、国際学会参加の推進、そして一流国際学術誌への成果公表の推進という指導方針になるかと思います。筑波大学は、研究重視の大学院大学となりました。我々、筑波大学教官は、それぞれのどの指導法をとろうとも、世界に通じる学生を育てる教育を通じて、学術的・国際的価値の高い研究成果や社会的要請の大きい応用研究・学際研究を世界に発信していかな